

学生から見た 小平市のイメージ

落ち着く場所

時間の流れ方がゆったりしている

いい意味でも悪い意味でも、
東京都という感じがしない

家ばかりではない
(小金井公園、ルネこだいら)

学生は静かな環境で
勉強ができる

住みやすい

高い建物は無いけれど
活気がある

わちゃわちゃしていないくて
環境がよい

JR から一駅外れただけで
こんなに静かな環境になる

ローカルな雰囲気

のんびりしている

畑とか木があって地元と近くて
親近感がある

線路沿いの畑の中の道から見た
景色が好きでよく散歩をする

人口密度があまり高くない

都市と違って高い建物がなくて
馴染みやすい

まちなみが良い

国分寺線のがたごト感が好き

小平市第四次長期総合計画に向けた取組み
大学生インタビューより

大学紹介

14-15p

…

嘉悦大学

16-17p

…

職業能力開発総合大学校

18-19p

…

白梅学園大学・白梅学園短期大学

20-21p

…

津田塾大学

22-23p

…

一橋大学

24-25p

…

文化学園大学

26-27p

…

武蔵野美術大学



嘉悦大学

ロゴマーク



創立		1903年
学部・学科数		2学部 2学科
学生数	学部・大学院含む	1,280人
留学生数		293人
卒業生総数		約30,000人
教員数	専任教職員	76人
敷地面積		27,000㎡
部活・サークル数		20団体

教育理念、目的、方針など

「怒るな働け」

嘉悦大学は、実学を通して社会に貢献することを建学の精神の根幹としております。これまで多くの職業会計人（公認会計士、税理士）を養成しております。また産官学連携により実際の事例から学ぶ授業・研究会を推進し、学生が主体的に実践的に課題を解決できる機会を創ることが嘉悦大学の教育です。

今後の嘉悦大学は、これから社会が発展し、企業も人も育つために必要なものを、マネジメントを通して考えることが本学の使命です。



地域活動の紹介

都立小平高校で選挙啓発授業を実施しました

和泉徹彦・経営経済学部教授と学生らが中心となって企画、運営した「TOKYO 選挙・実感プログラム～18歳選挙権に備えて」（共催・小平市選挙管理委員会）を、毎年、東京都立小平高等学校で開催しています。初めに、選挙の種類、統一地方選挙やスケジュールについての講義。目玉は、小平市選挙管理委員会が用意してくれたホンモノの投票体験です。3人の本学学生が模擬候補者に扮して、生徒に事前配布した選挙公報と演説を通じて支持を訴えました。「地域振興」「東京オリンピックと雇用拡大」「消費税増税による公共サービス充実」など論点は様々で、生徒は自分の考えに近いのは誰か、真剣に聞き入っていました。実際の投票では、生徒それぞれの名前が入った投票所入場整理券、投票用紙、投票台、投票箱とすべてホンモノの資機材が活用されました。



青空市場「こだマルシェ」を開催しました

毎年、いなげや花小金井駅前店正面広場にて、ビジネス創造学部岩月研究会の学生が企画・運営する青空市場「こだマルシェ」を開催しています。

今年も学生たちが厳選した東北のおいしい産品や地元小平産の新鮮な野菜をお届けしました。また、ビジネス創造学部白鳥研究会の学生が産官学連携活動の一環で訪れた鳥取県の産品も加わりました。学生たちは商品の良さを知っていただくために牛乳の飲み比べなど様々な工夫をこらして紹介しました。今後も、「地域・モノ・ヒト」を繋げられる仕組みをつくり、生産者の「モノづくりにかける想い」が詰まったおいしい逸品をお届けできるよう、活動を続けてまいります。



職業能力開発総合大学校

ロゴマーク



創立	1961年
学部・学科数	総合課程 4専攻 職業能力開発研究学域 4専攻
学生数	学部・大学院含む 446人
卒業生総数	約8,800人
教員数	100人
敷地面積	約42,000 m ²
部活・サークル数	18団体

教育理念、目的、方針など

職業能力開発総合大学校は、機械・電気・電子情報・建築の4専攻からなる厚生労働省所管の省庁大学校です。

工学教育と職業訓練の一体化により、生産現場に直結した高度な科学・技術・技能を兼ね備えた人材育成を目指しており、ものづくり現場のリーダーとなる人材を養成するとともに、幅広い教養を身に付け、時流の変化や地域の実情に応じた職業訓練の企画・立案ができる柔軟な発想を持った人材を重要な教育目的のひとつと位置づけています。



地域活動の紹介

ウィンターイルミネーション

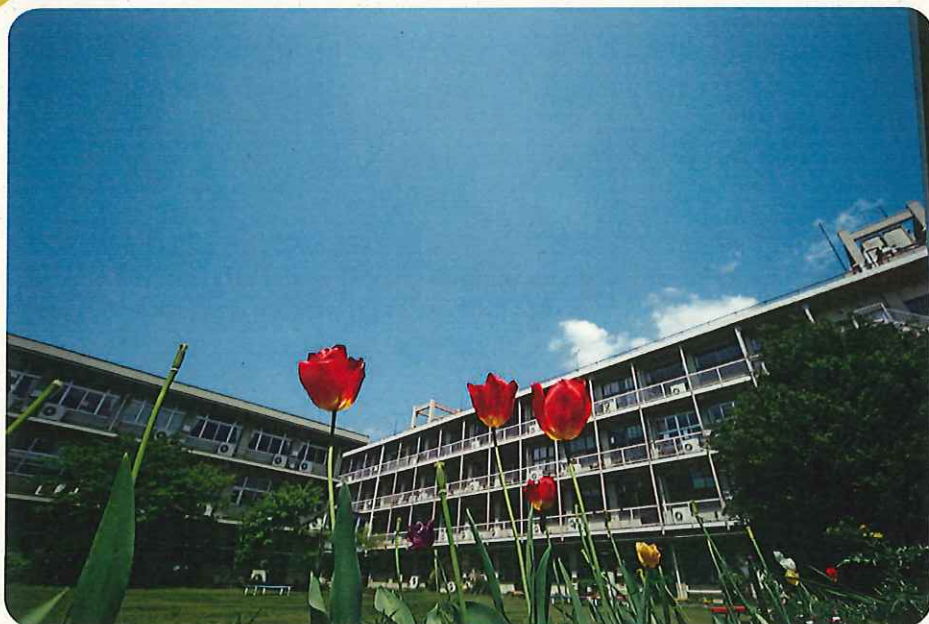
地域の活性化と本学の知名度向上を目的として、2005年から年末のイルミネーションを始めました。校内の築山には高さ15mのツリーを配置し、4号館の壁面には幅8m高さ12mの壁文字による電飾を行っています。2015年からは小平市と連携し「なかまちテラス」の壁面にも壁文字の電飾を行っており、近年では、小平市の冬の風物詩となるとともに、穏やかな雰囲気や華やかさを醸し出すなど教育機関の文化的な一面を発揮し存在感を示しています。

なかまちテラスまつり

毎年5月に開催されている「なかまちテラスまつり」において、ロボットハンドの製作をテーマにもものづくり体験教室を実施しています。小中学生を中心にものづくりの魅力を感じてもらっています。

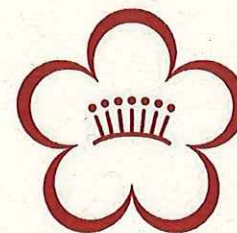
本学は、「日本のものづくり人材を育てる」という役割を担っている目的校です。本学の英語名称は「Polytechnic University」ですが、Polytechnicには、「リベラルアーツとともに科学と技術、技能（実技）を結び付けたキャリア（専門的技能）重視の教育」という意味があります。

本学の特徴の一つとして、卒業生の進路があります。約半数の卒業生は企業に就職し生産現場のリーダーとして働いていますが、残りの半数は職業訓練指導員（テクノインストラクター）として、全国で活躍しています。テクノインストラクターは、実践的な技術や技能を教える「ものづくりの先生」であり、都道府県の職業能力開発施設、障害者職業能力開発校（地方公務員）や法務省矯正施設（国家公務員）、（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構（準公務員）が運営する公的施設で働き、我が国の雇用の安定を支えています。



白梅学園大学 白梅学園短期大学

ロゴマーク



創立	1942年 大学設立 2005年
学部・学科数	1学部 3学科 短期大学 1学科
学生数 短期大学・学部・大学院含む	1,207人
留学生数	0人
卒業生総数 大学のみ	約 2,500人
教員数 大学短大専任教員数	51人
敷地面積	約 160,000 m ²
部活・サークル数	19団体

教育理念、目的、方針など

子どもと人間への理解を深め、幸せにつなげていく。

白梅学園大学、白梅学園短期大学は、建学の理念であるヒューマンイズムの精神に基づき、社会の今を担い、未来を受け継ぐ子どもとともに、新しい明日を築く、幅広い知見、豊かな教養を備えた人材を養成することを目指しています。子どもの育ちや子どもを取り巻く文化・社会状況に働きかける高い専門性を身につける教育を行っています。人の幸せを願い、自分らしい強みをもつスペシャリストを育成しています。



地域活動の紹介

以前より行ってきた地域活動と研究活動を2019年度から統一した形として、白梅学園大学・白梅学園短期大学子ども学研究所が設立され、3つの柱の1つとして地域交流事業が位置づけられました。

地域交流事業では、教員有志が中心となった「小平西地区地域ネットワーク」(以下「西ネット」)と学生が中心に運営する「白梅子育て広場」があります。また子どもサミットや小平子ども白書づくりをめざした「子どもの社会参画プロジェクト」、子育てネットワーク作りを目指した「地域コミュニティづくりにおける世代間交流の価値プロジェクト」(科研費)、「発達障害研究」「おいしい部屋(食育)研究」「遊びごころ研究」があり、地域活動と子ども学を中心とした研究を展開しています。

「西ネット」は顔の見える地域作りをめざし、2012年からスタートしました。年4回の地域懇談会と5回の世話人会、更には情報紙「小平西のきずな」を毎年4号作成し、地域に配布しています。子育て広場は地域の親子・高齢者が参加する「ひろば」7つを定期的で開催しています。なお2019年度末からコロナ禍で、予定された活動はできません。

また学生は定期的に小平市内の小学校等、施設等へのボランティア活動を行ってきました。

小平市とは小平市連携療育支援事業として、造形あそびやテニスのワークショップ、講演会などを通じ、小平市の障害理解と啓発、療育を約10年続けてきました。毎年約2千名を超える参加があります。

2010年より発達・教育相談室において事業を発展させ、小平地域を中心に、子どもを対象として、発達相談や講座の開催、巡回相談等を行っています。

白梅学園は1964年に小平市に移転し、幼稚園、中学校、高等学校、短期大学、大学、大学院を擁する学園と発展してきました。白梅学園は2022年に学園創立80周年を迎えます。

津田塾大学



ロゴマーク



創立	1900年
学部・学科数	2学部 6学科
学生数	学部・大学院含む 3,265人
留学生数	9人
卒業生総数	約 35,000人
教員数	103人
敷地面積	全キャンパス合計 103,171㎡

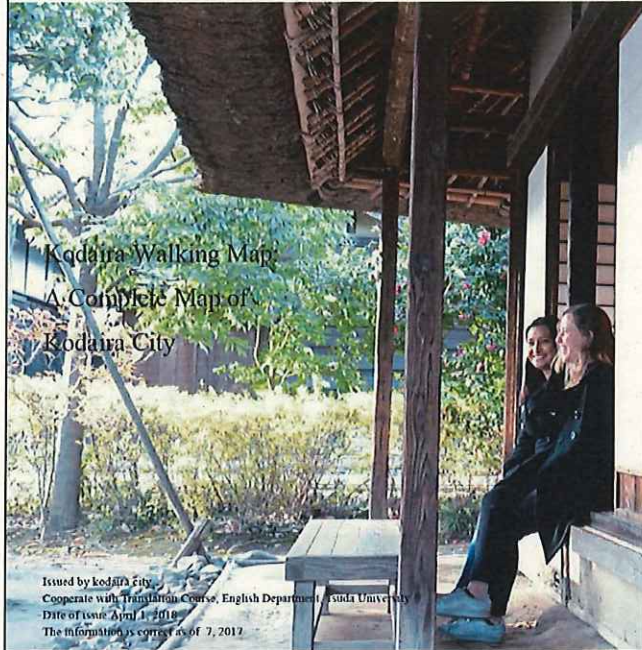
教育理念、目的、方針など

「社会に貢献する自立した女性を育成」

本学は1900年（明治33年）、日本初の女子留学生の一人、津田梅子により「女子英学塾」として創立されました。以来、「英語教育」「少人数教育」「高い専門性と幅広い教養の修得」を理念とし、社会に貢献する自立した女性—all-round women を育て、輩出することを使命としています。徹底した少人数教育の中で自主性、積極性を培い、高度な英語運用能力と幅広い教養を身につけた卒業生たちの活躍の舞台は、国内だけでなく国境を越えて世界に広がっています。

Kodaira

Foot hot map



地域活動の紹介

津田塾大学での学びを生かした地域活動を実施しています。

①小平市学校ボランティア：小平市教育委員会を通じ市内の小・中学校にて、外国語活動（英語）支援や、様々な教科の授業など学校活動の支援、放課後子ども教室支援、特別な支援を必要とする児童や外国語を母語とする児童の支援を行っています。

②英文学科副専攻翻訳コース（現在の英語英文学科の特設プログラム「翻訳・通訳プログラム」）の学生が小平市内の見どころを紹介する「こだいら歩っとまっぷ」を英訳しました。2020年度は、「小平市第四次長期総合計画」の概要をまとめた冊子の英訳に取り組んでいます。

小平キャンパス紹介

津田塾大学は、前身となる女子英学塾が1900年に当時の東京府麹町区一番町にて創立、1931年（昭和6年）に小平に移転しました。津田塾大学のシンボルともいべき本館は、日比谷公会堂や早稲田大学大隈講堂を設計した佐藤功一氏によるもので、津田梅子のプリンマー大学留学時代からの生涯の友であり、新校舎建設のため献身的に貢献したアナ・コープ・ハーツホンにちなみ「ハーツホン・ホール」と名づけられています（2001年2月、東京都選定歴史的建造物に指定）。移転当時2階の高さだったヒマラヤスギは現在では4階を超える巨木になり、小平市の市制50周年事業「こだいら銘木百選」に選定されました。毎年12月にはイルミネーションで飾られ、学生、教職員、地域の方々の目を楽しませてくれます。

1954年（昭和29年）に建築された星野あい記念図書館は、広島平和記念資料館、国立競技場代々木体育館、東京都庁舎などを設計した丹下健三氏の設計で、初期の作品で現存するものは少なく、貴重な建築物となっています。

創立100周年を記念して設立された津田梅子記念交流館は、卒業生、在学生そして地域の方々との交流の場として〈津田塾フォーラム〉を提供しています。〈津田塾フォーラム〉では、生涯にわたる学びを支援するために様々な交流館プログラム（公開講座、講演、展示、コンサートなど）を実施しています。



一橋大学



ロゴマーク



一橋大学

創立		1875年
学部・学科数		4学部 5研究科 1教育部 1研究所
学生数	学部・大学院含む	6,323人
留学生数		748人
卒業生総数		94,170人
教員数		390人
敷地面積	小平国際キャンパス	90,626 m ²
	国立キャンパス・その他	33,8260 m ²
部活・サークル数		160団体

教育理念、目的、方針など



一橋大学は、自由で平和な社会の構築のため、知的・文化的資産を創造すると共に、その指導的担い手を育成することを使命としています。

世界的な教育・研究拠点として、人間社会に共通する重要課題を解決し、豊かな教養と市民的公共性を備えた、構想力ある専門人、指導力ある人材を育成していきます。

地域活動の紹介



国際学生宿舎一橋寮

関東大震災で神田一ツ橋キャンパスを失った前身の東京商科大学は、1933年に小平村（現小平市）に予科を移転し、玉川上水の清流と武蔵野の面影を残す自然に恵まれた小平分校で、学生たちは勉学に課外活動にと励んできました。2003年、小平分校は、本学の日本人学生、大学院生と外国人留学生に加え、近隣の三大学の留学生が共に暮らす「国際学生宿舎一橋寮」を擁する小平国際キャンパスへとリニューアルされました。

一橋寮の特徴は、寮生組織（ISDAK）が運営や生活支援を行っている点です。小平商工会や小平市国際交流協会等のご協力により、新入学時の留学生商店街巡り、市民との餅つき大会や和装での成人式参加などを通して、多文化交流と相互理解、そして、地域との結びつきを深めています。



公開講座

一橋大学では、大学の教育を広く社会に開放し、地域社会の文化の向上に資することを目的として、毎年公開講座を開催しています。形式は5日間の連続講義と1日のシンポジウムとがあり、テーマはイノベーションやビッグデータの分析から美術館・博物館と本学の連携、裁判員制度等、幅広い内容を扱っています。

例年小平市民の方々をはじめとした近隣住民の皆様にも多数ご参加いただき、本学の研究・教育に触れていただく機会としてご好評をいただいています。



一橋大学は、建学以来、各界の指導的担い手を育成するとともに社会科学の諸分野を中心として最高水準の研究を展開する卓越した学術コミュニティとして歩んできました。21世紀の世界は、地球環境の危機、格差と分断がもたらす紛争と対立、グローバリゼーション・少子高齢化・サイバー空間の拡大などがもたらす急激な社会変動など、複雑で困難な諸課題に直面しています。さらに新型コロナウイルス感染症によるパンデミックが大きな歴史的衝撃を人類にもたらしている現在、大学は、未来を担う人材の育成と地球社会の持続可能な営みに資する知の創造と協働に向けて、ますます重要な役割を果たすことが期待されています。2019年、指定国立大学法人の指定を受けた一橋大学は、その歴史と伝統を継承しつつ、これら21世紀の諸課題に応え得る新たな社会科学の創造に挑戦しています。



新都心キャンパス

文化学園大学

ロゴマーク



創立		1950年
学部・学科数		3学部 7学科
学生数	学部・大学院含む	3,531人
留学生数		610人
卒業生総数		約70,000人
教員数		165人
敷地面積	新都心キャンパス	82,000㎡
部活・サークル数		30団体

教育理念、目的、方針など

「新しい美と文化の創造」

文化学園大学・文化学園大学短期大学部における建学の精神には、「新しい美と文化の創造」を掲げ、開学以来今日まで、その意義を失うことなくこれを継承してきています。

本学の教育は、服装領域から始まり、今日では「服装学部」「造形学部」「国際文化学部」、および「短期大学部」で構成され、各専門領域において時代をリードする「新しい美」を追究すること、またその教育研究活動を通じて次世代の「文化」を創造することを基本理念としています。



地域活動の紹介

畑からまっしぐらベジタブルマルシェ (2018・2019)

小平市の農家の方が作った冬野菜の即売会をプロデュース。ベジタブル × クリスマス × マルシェ=ベジタブルマルシェと題して2018年、19年の12月に西武新宿線花小金井駅前でイベントを行いました。

イベントのシンボルとなる野菜のクリスマスツリーを制作するツリー班、ポスターデザインなどを担当する広報デザイン班、野菜料理を提供するフード班、野菜のくじ引き班、野菜を使ったクラフトを考えるワークショップ班に分かれて、班ごとに企画を検討。国際文化・観光学科の2年生全員が参加しました。

小平産の野菜・くだものを用いたお土産商品企画の提案 (2017)

小平産の野菜やくだものを使って、新しいお土産商品を市民と学生の協働で考える取り組み。2017年10月に市民と学生のワークショップを開催。ワークショップで出たアイデアを学生たちが商品企画にまとめ、2018年2月プレゼンテーションを行いました。KODAIRA BEAUTYを共通コンセプトに、栽培発祥の地であるブルーベリーを用いた低糖質ケーキや酵素シロップ、ミニパンケーキなど若い女性をターゲットとした5つの商品企画を提案しました。





武蔵野美術大学

ロゴマーク



創立	1929年
学部・学科数	2学部 12学科
学生数	学部・大学院含む 7,049人
留学生数	583人
卒業生総数	約70,000人
教員数	209人
敷地面積	約110,000㎡
部活・サークル数	47団体

教育理念、目的、方針など

「真に人間的自由に達するような美術教育」2学部12学科を擁する日本を代表する美術・デザインの総合大学。

武蔵野美術大学は、1929年に創立された「帝国美術学校」を前身とし、「教養ある美術家養成」「真に人間的自由に達するような美術教育」を教育理念に掲げ、日本を代表する美術・デザイン大学として、これまでに7万人以上の卒業生を社会に輩出してきました。造形活動を通じて身につく、正解のない答えを探索し表現する能力は、今の時代にこそ最も必要とされています。卒業生は美術家、デザイナー、建築家、映像作家など、造形各分野の専門家として活躍するとともに、学生生活で培った創造性、コミュニケーション能力が高く評価され、多くの業界で日本及び世界有数の企業へ就職しています。

また、2019年4月には造形構想学部と大学院造形構想研究科を新たに開設。2学部12学科を擁する大学として新しく生まれ変わりました。同年4月には都心キャンパス（東京都新宿区）を開設し、1Fには（株）良品計画と大学との共創スペース「MUJlcom 武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス」が7月にオープンしました。この共創スペースでは美術大学と実社会を結ぶ実験的なイベントを年間通じて開催しています。



地域活動の紹介

小平アートサイト

「小平アートサイトは、武蔵野美術大学の学生が中央公園を会場に、小平野外彫刻展という名前で企画して始まった学生主催の野外展示企画です。昨年のアートサイトは「アートをもっとフラットに」の理念のもと、“日常”の中にアートがあるという関係を前提として、武蔵野美術大学周辺の小平市内の「公園」や「通学路」「商店街」に武蔵野美術大学の学生をはじめ、他大学で芸術を学ぶ学生も出展者に加わり、約40名の作品を展示しました。



芸術祭

本学では芸術祭の活動を学事のひとつとして位置づけ、10月末からの2週間(準備期間3日、祭典期間3日、整理期間2日)を課外活動の一環として設定しています。日頃の課外活動や個人制作・研究の成果を一般に向けて公開する作品展覧会は、各サークルを中心とした個性的な模擬店群とともに、アート作品の展示のみならず本格的なパレードや学生有志によるプロジェクションマッピング、雑貨販売など、すべての企画・運営を学生が主体的に行っており、来場者が4万人をこえるなど、本学開学以来の伝統的な行事となっています。芸術祭の企画・運営は、芸術祭実行委員会によって行われ、基本的に学生の自主的な企画・運営にまかされ、これに大学が助成・協力するというかたちで進められています。

美術館

1967年に開館した武蔵野美術大学美術資料図書館は2010年に「美術館・図書館」と名称を変更し、大学美術館として美術作品やデザイン資料などの収集と保存、データベースの構築、展覧会の企画、開催、図録の刊行などの活動を行っています。当館が所蔵する約3万点におよぶポスターと、約400点を数える近代椅子など4万点をこえる収蔵品は、デザイン研究の貴重な基礎資料として社会的にも大きな意義を持つコレクションを形成しています。2011年春に本学の新たなシンボルとして美術館がリニューアルし、さらなる教育研究機能の充実と、多岐にわたる展覧会の開催を通して活発な情報発信を行います。本学学生・教職員のほか、一般の方も入館料無料にてご利用頂けます。展示替期間および日曜・祝日を除き、4月から12月まで開館しています。詳しい会期等情報はWEBサイトをご確認ください。

<https://mauml.musabi.ac.jp/museum>

民俗資料室

武蔵野美術大学の「美術館・図書館」は、図書館機能と美術館・博物館の機能を併せ持つ複合的な施設ですが、そのなかのひとつに「民俗資料室」があります。ここでは主として一般の人々が日々の暮らしのなかで生み出し、使い続けてきた暮らしの造形資料(いわゆる民具)を約9万点収蔵しています。収蔵庫の一部を一般公開している日があります。見学の際は、WEBサイトをご確認の上お越しください。

<https://mauml.musabi.ac.jp/folkart>





小平市大学連携協議会のあゆみ
(こだいらブルーベリーリーグ)

発行日 令和3年3月

発行者 小平市大学連携協議会

デザイン 武蔵野美術大学 造形学部
視覚伝達デザイン学科
岡野 未侑・河畑 花恋・安永 彩夏

印刷・製本 株式会社アトミ

